

1. 校正の方法

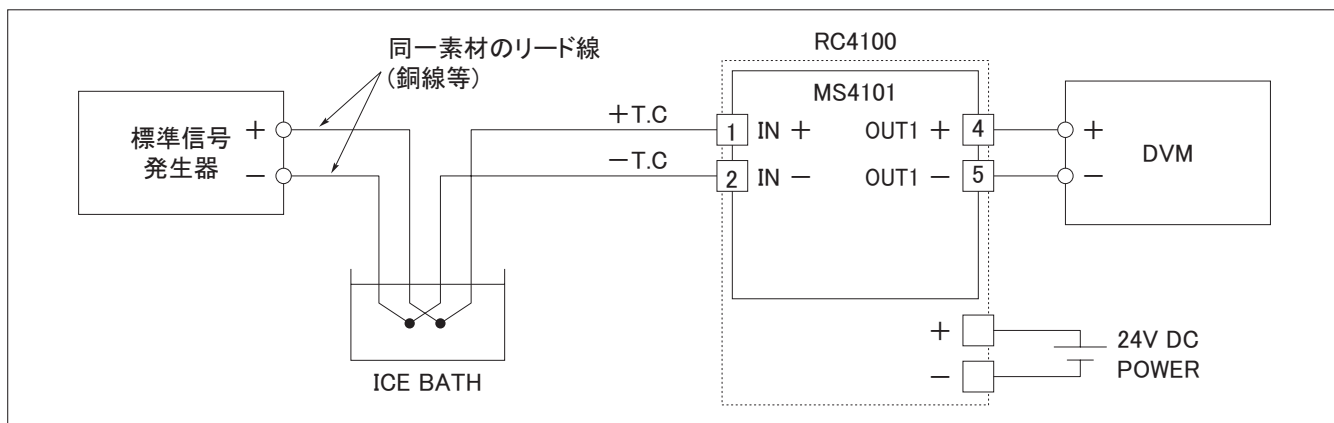
MS4100 シリーズ各モジュールは、予め、弊社工場で精密に調整されておりますのであらかじめ校正を行う必要はありません。

各モジュールの校正は熟練を要する作業です。校正が必要な場合は、なるべく弊社の再校正サービスをお受けください。費用等につきましては、弊社営業担当者にご相談下さい。

1-1. MS4101 に対する各機器の接続

図に従い各機器を接続してください。

(接続の作業は、全ての機器の電源を OFF にして行ってください。また、各機器の接続は RC4100 の端子台またはコネクタに対して行います。)



上図の状態各機器に電源を投入し、その後最低 30 分間のウォーミング・アップを行ってください。このウォーミング・アップが不十分ですと正確な校正ができません。

信号発生器の出力を入力レンジ 0% 相当の起電力信号に設定してください。

上記 の状態で MS4101 本体上面にあるゼロ・トリマ (左側に Z と印字してある方) をゆっくりと回転させ、MS4101 の出力が 0% となるように調整してください。

信号発生器の出力を入力レンジ 100% 相当の起電力信号に設定してください。

上記 の状態で MS4101 本体上面にあるスパン・トリマ (左側に S と印字してある方をゆっくりと回転させ、MS4101 の出力が 100% となるように調整してください。

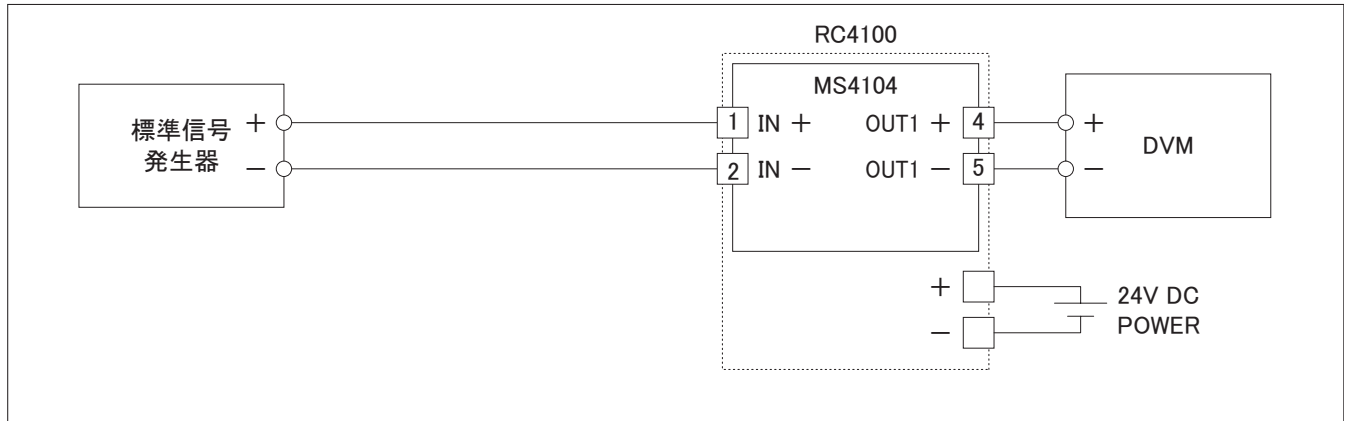
上記 ~ を数回繰り返し、ゼロ、スパンとも完全に調整してください。

信号発生器の出力を入力レンジの 25%、50%、75% 相当の起電力信号に順次調整し、各々の出力値を記録して直線性の確認を行ってください。

1-2. MS4104 に対する各機器の接続

下図に従い各機器を接続してください。

(接続の作業は、全ての機器の電源を OFF にして行ってください。また、各機器の接続は RC4100 の端子台またはコネクタに対して行います。)



上図の状態では各機器に電源を投入し、その後最低 30 分間のウォーミング・アップを行ってください。このウォーミング・アップが不十分ですと正確な校正ができません。

信号発生器の出力を入力レンジ 0% 相当の出力信号に設定してください。

上記の状態では MS4104 本体上面にあるゼロ・トリマ (左側に Z と印字してある方) をゆっくりと回転させ、MS4104 の出力が 0% となるように調整してください。

信号発生器の出力を入力レンジ 100% 相当の出力信号に設定してください。

上記の状態では MS4104 本体上面にあるスパン・トリマ (左側に S と印字してある方) をゆっくりと回転させ、MS4104 の出力が 100% となるように調整してください。

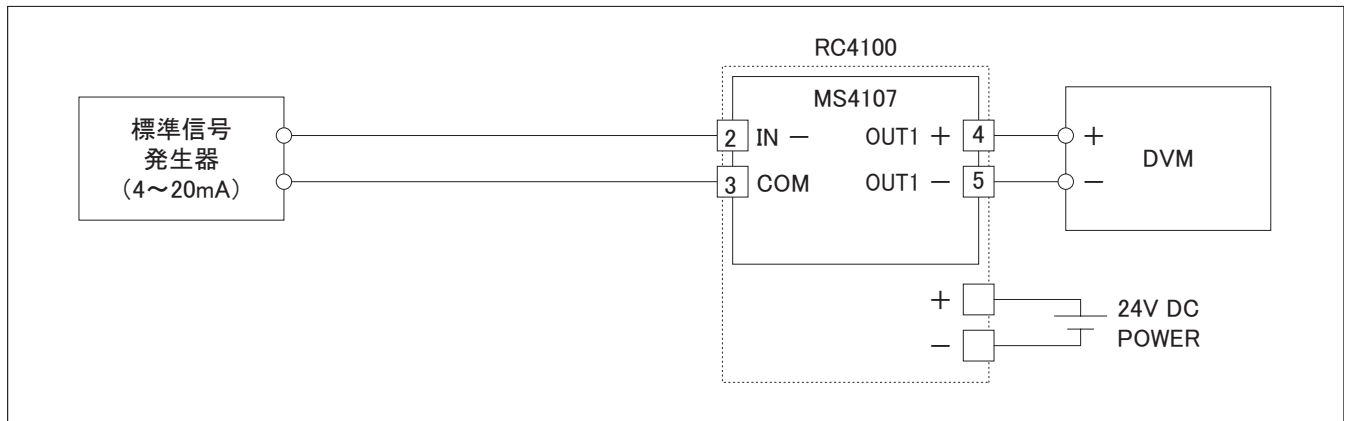
上記 ~ を数回繰り返し、ゼロ、スパンとも完全に調整してください。

信号発生器の出力を入力レンジの 25%、50%、75% 相当の出力信号に順次調整し、各々の出力値を記録して直線性の確認を行ってください。

1-3. MS4107 に対する各機器の接続

下図に従い各機器を接続してください。

(接続の作業は、全ての機器の電源を OFF にして行ってください。また、各機器の接続は RC4100 の端子台またはコネクタに対して行います。)



上図の状態でご機器に電源を投入し、その後最低 30 分間のウォーミング・アップを行ってください。このウォーミング・アップが不十分ですと正確な校正ができません。

信号発生器の出力を 4mA に設定してください。

上記 の状態で MS4107 本体上面にあるゼロ・トリマ (左側に Z と印字してある方) をゆっくりと回転させ、MS4107 の出力が 0% となるように調整してください。

信号発生器の出力を 20mA に設定してください。

上記 の状態で MS4107 本体上面にあるスパン・トリマ (左側に S と印字してある方) をゆっくりと回転させ、MS4107 の出力が 100% となるように調整してください。

上記 ~ を数回繰り返して、ゼロ、スパンとも完全に調整してください。

信号発生器の出力を入力レンジの 25%、50%、75% 相当の出力信号に順次調整し、各々の出力値を記録して直線性の確認を行ってください。